

## 主題名 すすんで働く(教材名「かっこいいせなか」)

第3、4学年 C-(14) 勤労、公共の精神

### ◆本実践の概要

教材から、全校のために働く6年生の姿を捉えさせ、なぜ下級生の目にかっこよく映ったのかを考えさせる。その後は、教材から離れ、学校で4年生が自発的にやっている朝清掃に焦点を当て、どのような思いで行っているのか異学年の対話で深めていく。交流の中からみんなのために働くよさに気付かせ、みんなのために働こうとする意欲をもたせる。教材から、身近な出来事へと場面をかえることで、自分事として考えられるようにする。

### 1 ねらい

教科書の登場人物や3年生と4年生の異学年の交流を通して、みんなのために働くよさに気づき、進んで働こうとする心情を育てる。(心情)

### 2 教材について

教材から、働くことに意義を見いだせず、働くということが面倒だと思ふ気持ちをもっていることに共感させながら、6年生のように全校のために働くようになりたいと心情が変化したことを考えさせたい。その後、4年生が自発的に玄関の朝清掃をしていることを取り上げ、異学年での交流を取り入れる。4年生がどのような気持ちでしているのかを伝えたり、3年生が質問したりするなど対話をする中で、人のため、自分のために働くよさに気付かせ、自分たちも働きたいという意欲をもたせたい。教材から、身近な出来事へと場面をかえることでより、自分事として考えられるようにしていきたい。

### 3 児童の実態

3年生と4年生が在籍する複式学級である。学級全体で何かを成し遂げようとするとき、自ら行動する真面目な児童が多い。4年生は自分達の分担でなくても全校のために働きたいと思ふ、また昨年の6年生が玄関掃除をしていたことを受けて自分たちがその伝統を受け継ぎたいという思いがあり、週に一度、朝、玄関の清掃活動を行っている。課題としては、言われた事に対しては真面目に取り組むことができるが、日常生活においては率先して丁寧に行うという意識が低いことである。与えられた役割は果たすが、他者のためにという気持ちはまだ育っていない児童が多い。本校は小規模校であることから、一人一人がもつ役割も多く、責任も重い。このことから、リーダー性を育てていくためには適しているので「みんなのために」という心情をしっかり育てていきたい。

### 4 本時の実際

過程	学習活動と主な発問	・児童の反応	指導上の留意点
授業前	<p>○ 本日の内容項目について自分の考えをジャムボードに記入する。</p> <p>○ なんのために働くのでしょうか。</p>	<p>・困っている人を助ける。</p> <p>・みんなのため。</p> <p>・ほめられるため。</p> <p>・よろこんでもらうため。</p>	<p>・授業前後を比較させるため付箋の色を黄色で統一する。</p> <p>(個人のページを作成しそこに記述させ変容を見取る)</p>



<p>導入</p>	<p>① 価値への導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業前に記述した内容項目について確認する。</li> </ul>	<p>なんのために働くのか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に書かせた内容をジャムボードにまとめ分類して提示する。</li> <li>・多様な考えがあることに気付かせる。</li> </ul>
<p>展開前段</p>	<p>②本文「かっこいいせなか」を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主人公が6年生の背中をかっこいいと思ったのはどうしてか考えながら聞いてください。</li> </ul> <p>③ 内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○働くことがめんどくさいなって思ったことはありませんか。</li> <li>○なぜ、ゆうだいは6年生の背中を見てかっこいいなと思ったのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある。</li> <li>・息を切らし働いていたから。</li> <li>・一生懸命運んでいたから。</li> <li>・みんなで協力していたから。</li> <li>・他の仕事をしていたから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を焦点化し、授業をスムーズに展開できるように、どこを中心に話を聞か視点を与える。</li> <li>・働くことに負担を感じたり、面倒に思ったりするような弱さは誰にでもあることを共有させる。</li> </ul>
<p>展開後段</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">進んではたらくとはい、どういうことだろうか？</p> <p>④ 自分事として考える</p> <p>○なぜ、4年生は自分たちの担当ではないのに朝、玄関の掃除をしているのでしょうか。→3年生へ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ4年生は 朝、げんかんのそうじをしているのか。</p>  </div> <p>○4年生に聞いてみたいことはありますか？(3年生→4年生)</p> <p>○今の4年生の話聞いて、どんなことを思いましたか。(教師→3年生)</p> <p>◇学校だよりの紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・去年の6年生がしていた伝統を受け継ぎたいと思ったから。</li> <li>・皆のためにきれいにしたい。</li> <li>・みんなでするのが好き。</li> <li>・すっきりする。(達成感)</li> <li>・みんなですると楽しい。</li> <li>・なんで気持ちよかったのですか。</li> <li>・いつから楽しいと感じたのですか。</li> <li>・自分もしてみたい。</li> <li>・うれしいと思う。</li> <li>・自分も家で働きたくなった。</li> <li>・自分のためにしてみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の存在から、身近な存在に対象をかえ、自分事として考えやすくする。</li> <li>・大型画面に発問などを、提示することで板書の時間を短縮させる。</li> <li>・4年生は自分のしてきたことを振り返る機会とする。また、自分の行いを他者から評価されることで実践意欲が高まるようにする。</li> </ul> 

○なぜ、校長先生はみんなの活動の様子をお家の人や地域の方につたえたかったのでしょうか。

◎すすんではたらくためには、自分にどんな気持ち(思い)があったらできそうですか。

⑤ 小グループでの交流

(1回3分×2回)

1回目:同学年での交流(3分)

2回目:異学年での交流(4分)



⑥ 全体での交流

○自分と考えが違った人であるほどと思った人・みんなに聞いてほしいと思った人の名前を教えてください。

- ・そうじしてもらえることが嬉しいから。
- ・みんなに知ってほしいから。
- ・人に喜んでもらえる。
- ・誰かのためになる。
- ・いろんな人に認められたい。
- ・誰かに言われるのではなく、自分たちからする。
- ・誰かが認めてくれる。
- ・人の役にたっていると思える。
- ・いいことがあるぞ(お礼を言われたり、褒められたりする)と思う。



・自分たちの行いが、他者にどんな影響を与えているのか多面的に考えさせる。



- ・1回目、同学年で交流しておくことで自信をつけたり、考えを深めたりできるようにする。
- ・2回目、異学年で交流することで、異なった視点から考えが深まることができるようにする。
- ・聞いてほしい人を限定することで、交流を振り返り、意見をもう一度吟味することにつなげる。

⑦ 学習を振り返る

○今日の学習、友達との交流を通して、どんなことが一番心に残りましたか。ワークシートに書いてください。

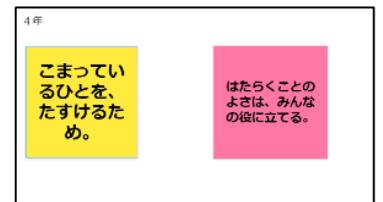
○ジャムボードのピンクの付箋に今日の学習を振り返り、大事だと思うことの続きを書いてください。

⑧ 全体で共有する

・書き終わったところで、個人で記述されているものを共有する。

- ・みんなが人の役にたちたいと思っているのを知って優しいなと思った。もっと人の役にたちたいと思った。
- ・すすんで働くといいことがたくさんあることがわかった。働くときみんなの笑顔がたくさん。
- ・ぼくは、自分からどんどん働きたくなった。

- ・一番と限定することで授業をしっかり振り返らせる。
- ・スライド機能を生かし、個人のページに授業前と授業後の記述を比較させることで児童の変容を見取ることができるようにする。



⑨ 自己を振り返り、今後について考えさせる

○運動会で見つけたみんなの素敵な姿を紹介します。

練習中



運動会当日



- ・運動会での係活動などで働いた様子をスライドにして紹介し働くよさについて振り返りをさせ、今後の働き方について考えさせる。

## 5 評価の視点

- ・進んで働くことについて、自分の日常生活と照らし合わせながら考えていたか。
- ・教科書の登場人物や3・4年生との交流を通して、みんなのために働くよさについて様々な視点から考えていたか。

## 6 実践を振り返って

### 【成果】

#### 複式学級

生活経験が異なる異学年で授業展開をすることにより学びが深まる。また、自己肯定感や自己有用感を高められるように、異学年の対話による交流を仕組むことができ、道徳的実践意欲を高めることにもつながる。また、そのことで互いが自分事として考えられるようになる。

#### 1人1台端末の活用

ジャムボードを活用することによって、個と集団の学びの変容の足跡を残していく。短時間で他者の多くの考えに触れることができる。ジャムボードの付箋機能を活用することにより、授業前と授業後に自己の変容や内容項目の広がりについて可視化でき理解を深めることができる。また、他者の考えを短時間で知ることが可能である。さらに、データとして蓄積されていくのでいつでも振り返りが可能となる。

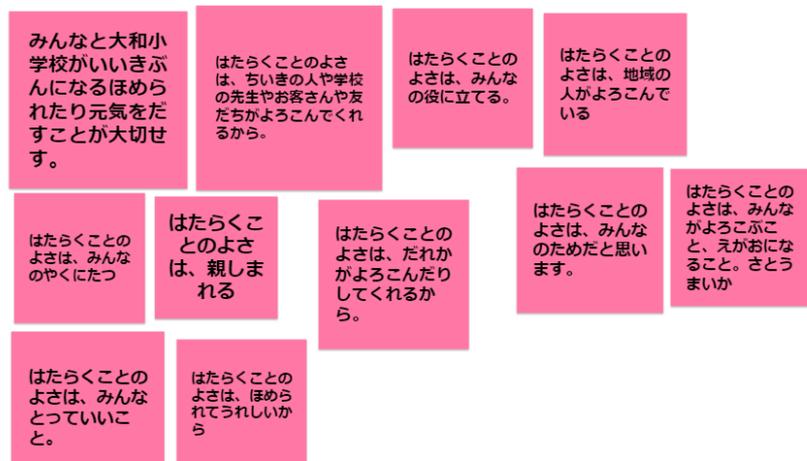
#### 対話・発問

児童が考えたい中心発問にすることによって自分事として考えることができる。児童が必死で考えた答えは他者に聞いてほしいと思うし、他者がどんなことを考えたのかも知りたくるので対話が深まる。少人数での交流を複数回行うことによって主体的・対話的で深い学びに近づくことができる。そして、多くの人と交流することによって答えが1つではないことに気付かせるとともに、その中から自分の納得解を見付けさせることにより児童が主体的に考え、対話を通して考えが広がり、深い学びへと向かうことができる。

また、3年生が4年生に自分自身の疑問を投げかけることで、考えを深め、自分なりの納得解を得ていくことにつなげることができる。

### 【課題】

授業時間の45分には収まらなかったためタイムマネジメントが課題。対話・交流をメインで行うので問う内容を精選していく必要がある。



※授業後の児童の書き込み